



## 平成26年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年6月25日

上場会社名 株式会社 パルコ  
コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役財務部、経理部、事務統括部担当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成25年7月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年2月期第1四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第1四半期	65,282	0.9	2,781	31.7	2,755	43.6	1,587	127.9
25年2月期第1四半期	64,704	7.2	2,112	46.5	1,918	47.3	696	10.3

(注)包括利益 26年2月期第1四半期 1,860百万円 (149.4%) 25年2月期第1四半期 746百万円 (65.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第1四半期	15.65	—
25年2月期第1四半期	8.47	7.04

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年2月期第1四半期	227,498	104,528	45.9
25年2月期	206,243	103,573	50.2

(参考)自己資本 26年2月期第1四半期 104,528百万円 25年2月期 103,573百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	9.00	—	9.00	18.00
26年2月期	—	—	—	—	—
26年2月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	131,150	2.2	5,350	10.1	5,150	13.1	2,650	18.4	26.12
通期	271,400	2.5	11,800	9.0	11,350	9.9	6,000	18.0	59.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期1Q	101,462,977 株	25年2月期	101,462,977 株
② 期末自己株式数	26年2月期1Q	4,920 株	25年2月期	11,635 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期1Q	101,453,390 株	25年2月期1Q	82,237,919 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) セグメント情報等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策及び金融政策の効果により円安、株高が進行し、企業収益や高額品購入を中心とする個人消費に回復傾向がみられたものの、欧州の財政不安や円安影響による輸入資材の価格上昇等といった国内景気を下押しするリスクが存在することから、景気の先行きには不透明感が残りました。

このような状況の下、当社グループは、都市生活のアンカーとしての存在意義を高めるため、パルコの原点である「インキュベーション」、「街づくり」、「情報発信」を具体化すべく事業を推進いたしました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、ゼロゲートの新店2店舗開業に加え、福岡パルコ及び隣地の土地建物を取得し、隣地の建物の建替えを決定する等、将来の成長に向け事業拠点を拡大いたしました。また、既存パルコ店舗につきまして、引き続きテーマ性を持った提案型の改装と、＜PARCOカード＞を軸とした営業企画・販売促進策を展開することで業態革新を推進し、収益基盤の強化を図りました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は652億82百万円（前年同期比100.9%）、営業利益は27億81百万円（前年同期比131.7%）、経常利益は27億55百万円（前年同期比143.6%）、四半期純利益は15億87百万円（前年同期比227.9%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

#### <ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は595億29百万円（前年同期比101.2%）、営業利益は25億91百万円（前年同期比128.9%）となりました。

株式会社パルコにつきましては、4月、大阪にゼロゲートの新店2店舗を開業し、心斎橋ゼロゲートには「H&M」の国内最大級の売場面積規模となる大型旗艦店舗を、道頓堀ゼロゲートには関西初出店となる「FOREVER21」を導入いたしました。また、福岡パルコにつきまして、本館及び隣地の土地建物の信託受益権を取得後、隣地の建物を福岡パルコの新館として建替える方針を決定し、平成26年秋の開業（予定）に向け「福岡新館プロジェクト」業務に着手いたしました。

既存パルコ店舗につきましては、引き続き改装と営業企画・販売促進企画による業態革新を推進いたしました。春の改装につきましては、都心型店舗を中心に全店計約16,000㎡を改装し、改装ゾーンの売上高前年同期比は全店計107.5%と伸長いたしました。主な改装店は次のとおりです。

#### [渋谷パルコ]

オープン40周年を迎える渋谷パルコでは、新業態、エリア初出店を軸に情報発信型ショップの展開を積極的に推進いたしました。サーフカルチャーとファッションを融合させたギャラリー・カフェ併設のセレクトショップやレディスファッション等、渋谷エリア初出店10店舗（うち新業態6店舗）を、パート1のB1階～4階、パート3の1・2階に導入いたしました。

#### [名古屋パルコ]

南館につきまして、平成24年秋に改装した1・2階に続き、3月に3階を全面的に刷新いたしました。名古屋エリア初出店4店舗（うち新業態2店舗）を含む5店舗を「デザイン」・「モード」の切り口で編集し、男女・年齢を問わず買物を楽しめるフロアに改装いたしました。

#### [静岡パルコ]

平成24年秋のグランドフロア改装に続き、3階レディスフロアを3月から4月にかけて全面的に刷新いたしました。静岡エリア初出店8店舗（うち新業態2店舗）を導入し、ファッション、ビューティ、カフェからなる女性のためのライフスタイルフロアとして再編集いたしました。

営業企画につきましては、前年度のサービス拡充策により＜PARCOカード＞新規会員が大幅に増加したことを踏まえ、3月の＜PARCOカード＞企画や5月の『PARTY SALE』開催時の会員優待企画内容を強化いたしました。これにより＜PARCOカード＞取扱高は前年比106.9%と伸長いたしました。

また、新たな宣伝・販売促進手法として戦略的にWebを活用いたしました。パルコ各店Webサイトのリニューアルを順次進める中で、お客様とのコミュニケーションツールであるテナントショップブログに、ソーシャルネットワークワーキングサービスとの連携機能を追加し、情報拡散機能を強化いたしました。加えて、国内最大級のコミュニケーションアプリ「LINE」にパルコ公式アカウントを開設しクーポンを配布する等、O2O（オーナー）施策（※）を具体化いたしました。

J. フロント リテイリンググループとしての協業の取り組みといたしましては、(株)大丸松坂屋百貨店との初の全店規模での共同販促企画となる『春のウルトラサンクスフェスティバル』(3月)の開催や、当社及び(株)大丸松坂屋百貨店の株主優待割引制度の相互提供開始(5月)等の施策により、新たな客層の拡大と売上高の向上を図りました。

※O2OとはOnline to Offlineの略で、例えばWeb上(Online)でクーポンを配布しWeb外(Offline)のリアル店舗に顧客を誘導するといった、オンラインとオフラインでの販売促進活動と購買行動を相互に連携させることを指します。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は43億円(前年同期比107.2%)、営業利益は49百万円(前年同期比81.3%)となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、今期新たに11店舗を出店したことにより、売上高は前年同期実績を上回りましたが、前年同期より出店数が増えたことによる販売管理費の増加により、営業利益は前年同期実績を下回りました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は48億32百万円(前年同期比107.8%)、営業利益は1億14百万円(前年同期比156.2%)となりました。

株式会社パルコススペースシステムズにつきましては、専門店や外資系ホテルの内装工事及び電気工事の受注増により、売上高、営業利益とも前年同期実績を上回りました。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は15億1百万円(前年同期比91.6%)、営業利益は47百万円(前年同期営業損失33百万円)となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、三谷幸喜作・演出『ホロヴィッツとの対話』や美輪明宏演出・出演『黒蜥蜴』等の話題作を上演し好評を博しました。前年マルチ企画展開したコンテンツの売上の反動はあるものの、営業利益は前年同期実績を上回りました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、パルコ及び専門店からのO2Oやスマートフォン対応をテーマとしたWebサイトのリニューアル等の受注増により、売上高、営業利益とも前年同期実績を上回りました。

(注) セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して212億54百万円増加し、2,274億98百万円となりました。主な要因は、福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の取得による有形固定資産の増加などによるものであります。当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して202億99百万円増加し、1,229億70百万円となりました。主な要因は、有利子負債の増加などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して9億54百万円増加し、1,045億28百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して42億70百万円減少し61億92百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益26億91百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し14億68百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、230億23百万円の支出となりました。これは、主に福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の有形固定資産の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、172億63百万円の収入となりました。これは、主に有利子負債の増加や配当金の支払いなどによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期連結業績予想につきましては、平成25年4月5日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計方針の変更

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,463	6,192
受取手形及び営業未収入金	7,675	10,726
有価証券	—	300
商品及び製品	2,758	3,081
仕掛品	225	377
原材料及び貯蔵品	41	42
その他	7,833	7,544
貸倒引当金	△5	△7
流動資産合計	28,991	28,257
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	119,131	120,694
減価償却累計額	△74,664	△75,461
減損損失累計額	△1,034	△1,054
建物及び構築物（純額）	43,432	44,178
信託建物及び構築物	17,209	17,304
減価償却累計額	△2,472	△2,690
信託建物及び構築物（純額）	14,737	14,614
機械装置及び運搬具	1,395	1,383
減価償却累計額	△1,089	△1,096
機械装置及び運搬具（純額）	305	286
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△7	△8
信託機械装置及び運搬具（純額）	9	8
その他	5,597	5,799
減価償却累計額	△4,227	△4,321
減損損失累計額	△122	△125
その他（純額）	1,248	1,352
信託その他	136	138
減価償却累計額	△63	△68
信託その他（純額）	73	69
土地	43,994	46,608
信託土地	19,371	46,536
建設仮勘定	526	4
有形固定資産合計	123,698	153,658
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	894	934
無形固定資産合計	11,844	11,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,924	3,103
敷金及び保証金	35,631	28,068
その他	3,365	2,735
貸倒引当金	△212	△210
投資その他の資産合計	41,708	33,696
固定資産合計	177,251	199,240
資産合計	206,243	227,498
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	16,278	20,281
短期借入金	5,978	12,040
未払法人税等	3,406	1,162
引当金	1,468	2,065
その他	9,243	10,442
流動負債合計	36,375	45,992
固定負債		
長期借入金	30,397	40,550
引当金	1,737	1,734
受入保証金	33,377	33,977
その他	782	715
固定負債合計	66,295	76,977
負債合計	102,670	122,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,367	34,367
資本剰余金	35,124	35,128
利益剰余金	33,830	34,504
自己株式	△7	△3
株主資本合計	103,314	103,996
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	397	656
為替換算調整勘定	△138	△124
その他の包括利益累計額合計	258	531
純資産合計	103,573	104,528
負債純資産合計	206,243	227,498



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	64,704	65,282
売上原価	55,090	55,397
売上総利益	9,613	9,885
営業収入	703	914
営業総利益	10,317	10,800
販売費及び一般管理費	8,205	8,018
営業利益	2,112	2,781
営業外収益		
受取利息	13	17
受取配当金	3	3
雑収入	57	112
営業外収益合計	73	132
営業外費用		
支払利息	193	136
持分法による投資損失	61	0
雑支出	11	22
営業外費用合計	267	159
経常利益	1,918	2,755
特別利益		
投資有価証券売却益	—	10
その他	—	0
特別利益合計	—	10
特別損失		
固定資産除却損	382	73
投資有価証券評価損	293	—
その他	1	0
特別損失合計	677	74
税金等調整前四半期純利益	1,241	2,691
法人税等	544	1,104
少数株主損益調整前四半期純利益	696	1,587
四半期純利益	696	1,587

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	696	1,587
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	259
為替換算調整勘定	19	10
持分法適用会社に対する持分相当額	4	3
その他の包括利益合計	49	273
四半期包括利益	746	1,860
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	746	1,860
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,241	2,691
減価償却費	1,486	1,428
賞与引当金の増減額 (△は減少)	571	577
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	20	△3
受取利息及び受取配当金	△16	△20
支払利息	193	136
固定資産除売却損益 (△は益)	159	42
投資有価証券評価損益 (△は益)	293	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,442	△3,049
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△287	△475
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,512	4,003
その他の資産・負債の増減額	△3	546
その他	59	12
小計	4,787	5,890
利息及び配当金の受取額	16	20
利息の支払額	△251	△195
店舗閉鎖に伴う支払額	△23	—
賃貸借契約解約に伴う支払額	—	△999
法人税等の支払額	△1,013	△3,247
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,515	1,468
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	—	△300
有形固定資産の取得による支出	△1,629	△30,946
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	5	238
敷金及び保証金の差入による支出	△394	△411
敷金及び保証金の回収による収入	603	8,184
受入保証金の増減額 (△は減少)	△295	339
その他	△38	△125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,748	△23,023
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△920	3,200
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	—	1,999
長期借入れによる収入	8,500	15,500
長期借入金の返済による支出	△3,078	△2,488
自己株式の純増減額 (△は増加)	7	7
配当金の支払額	△740	△913
その他	△34	△42
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,734	17,263
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,525	△4,270
現金及び現金同等物の期首残高	7,437	10,463
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,963	6,192

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	58,815	2,379	2,637	1,574	65,407	—	65,407
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,632	1,843	65	3,541	△3,541	—
計	58,815	4,012	4,481	1,640	68,949	△3,541	65,407
セグメント利益又は損失(△)	2,010	61	73	△33	2,111	0	2,112

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	59,529	2,660	2,665	1,342	66,197	—	66,197
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,640	2,167	159	3,967	△3,967	—
計	59,529	4,300	4,832	1,501	70,165	△3,967	66,197
セグメント利益	2,591	49	114	47	2,803	△21	2,781

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益の調整額△21百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。